



御幸病院 副看護部長
福原 千秋さん

熊本大学医学部保健学臨床教授、日本アロマセラピー学会会員、日本アロマ環境協会インストラクター。御幸病院でのアロマセラピー活動の立ち上げから携わり、現在約150名の看護師を取りまとめている。

医療法人 博光会 御幸病院

病院機能評価認定病院。総院長／馬場憲一郎、院長／吉田健、診療科目／内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・漢方内科・心療内科・アレルギー疾患内科・神經内科・小児科・歯科・リハビリテーション科・麻酔科。所在地／熊本市南区御幸笛田6-7-40



(左上) 老健施設からイタリアンレストランまで11の施設を持つ「みゆきの里」グループ(左下) 院内の勉強会では各精油の特長を学び、エアーフレッシュナーやバスソルトなどを作成(右)オイルランプのほか電気や火を使わないペーパーフラワーで、部署や病棟に応じた香りを活用



香りって見えないのに、
本当にリラックスして
元気になれるんです

廊下の一角に咲く、紙で作られたオレンジの花。アロマオイルを染み込ませたペーパーフラワーが、院内に穏やかな香りを運んでくれます。「緩和ケア病棟では気持ちを落ち着かせるラベンダー、リハビリ病棟では集中力を高めるペパーミントなど、各場所に合わせた香りを使つています」と福原さん。

平成16年から看護部のプロジェクトとして始まったアロマセラピーですが、10年経つた現在の御幸病院では看護師や介護職をはじめ、リハビリから歯科衛生士に至るまで多職種協働で多くのスタッフ

がその活動に携わります。既に取得していた日本アロマ環境協会の検定合格者を中心にコアメンバー11人が集まり、基礎学習から開始。今では多職種のスタッフがアロマセラピーに取り組める環境を作りました。現在行っている芳香浴や手浴・足浴の効果からか、「男性患者さんが『今日は何時からするとね』と尋ねたり、次第に看護師との会話が増えたり。娘さんも『無口』で自分の気持ちを表現することがなかつた父が、こんなにこよかに話すようになつて」と驚かれていました」と福原さんは微笑みます。

またさらなるアロマへの想いを語るのは、共に活動を支える橋口看護部長。「アロマの材料は植物なので、自分達で栽培することも可能。そうやって栽培を楽しむことが、生きる力にもつながると考えています。『アロマ農園』や『アロマの小路』があつたら楽しそう!」と、これからのがその活動に携わります。既に取得していた日本アロマ環境協会の検定合格者を中心にコアメンバー11人が集まり、基礎学習から開始。今では多職種のスタッフがアロマセラピーに取り組める環境を作りました。現在行っている芳香浴や手浴・足浴の効果からか、「男性患者さんが『今日は何時からするとね』と尋ねたり、次第に看護師との会話が増えたり。娘さんも『無口』で自分の気持ちを表現することがなかつた父が、こんなにこよかに話すようになつて」と驚かれていました」と福原さんは微笑みます。

「今日もローズマリーやゼラニウムを使つた、手作り化粧水を使いました」。そう話す福原さんの艶々の肌が、アロマの大きな力を教えてくれました。

